電気電子工学委員会 URSI 分科会
医用生体電磁気学小委員会（第 26 期・第３回）

議事要旨

日　時：2026 年３月３日（火）　12:30～13:30
会　場：電気通信大学Ａ棟 403　およびオンライン（Teams）ハイブリッド開催
出席者：

現地参加

中園聡（電中研：委員長）、平田晃正（名工大：副委員長）、関野正樹（東大：幹事）

オンライン参加

齊藤一幸（千葉大：幹事）、長岡智明（NICT：幹事）、日景隆（北大：幹事）、齋藤淳史（電中研：幹事）、吉田映子（電中研：幹事補佐）、山崎祥他（NICT：幹事補佐）、河野隆二（横国大：連携会員）、池畑政輝（鉄道総研）、牛山明（科学院）、王建青（名工大）、大西輝夫（NICT）、榛葉健太（東大）、多氣昌生（都立大）、田畑仁（東大）、東山潤司（NTT ドコモ）、増田宏（久留米大）、松井康人（京大）、山口さち子（NICT）、山崎健一（電中研）、李鯤（電通大）、渡辺聡一（NICT）

欠席

小寺紗千子（名工大：幹事）、和氣加奈子（NICT：連携会員）、伊藤公一（千葉大）、上野照剛（元・東大）、黒田輝（東海大）、重光司（元・電中研）、清水久恵（北科大）、松木英敏（東北大）

議事：

■　議題１：URSI-JRSM 2026 の状況報告

・中園委員長より、3/2-3 に電気通信大学にて開催されている URSI-Japan Radio Science Meeting（JRSM）2026 に関する状況報告がなされた。参加登録数は 97 名であり、Commission-K については、平田副委員長の招待講演の他、口頭発表 3 件、Student Paper Competition（SPC）１件の登録があった。SPC では東京大学の関野委員の研究室の学生が上位３名に入賞したため、後ほど URSI Radio Science Letters への Invited Paper の投稿依頼がなされる予定である。次回の URSI-JRSM の開催時期は未定だが、2028 年度開催が計画されている。なお、富山にて開催される AP-RASC と同じ 2028 年ではなく、AT-RASC と同じ年の 10 月頃に開催することも検討するとのことであった。

・河野委員より、URSI-JRSM での基調講演の内容として、新たに設立された「電波資源利用ハーモナイゼーション小委員会」の設立経緯および活動内容について紹介があった。同小委員会では、Commission-A から K のすべてに関わる共通テーマとして、電波資源の科学・産業・医療等の各分野における電波利用のハーモナイゼーションを扱う。具体的には、医療用

の無線ボディエリアネットワーク（WBAN）やマイクロ波を用いたワイヤレス給電（WPT）に関し、人体や医療機器に対する防護指針や規格の問題、自動車搭載時における干渉などの電波法上の課題を対象とする。Commission-K が担当する医療分野は本小委員会の対象範囲と密接に関係するため、特に重要な分野であるとの説明がなされた。

■　議題２：URSI-GASS 2026 の状況報告

・李委員より、URSI-General Assembly and Scientific Symposium（GASS）2026 の準備状況について報告があった。2026 年大会の総投稿数は 1,365 件であり、このうち Commission-K 関連は 100 件程度であった。2023 年の札幌開催時と比較すると 50 件ほど少ないものの、全体としては十分な投稿数が確保されているとの見解が示された。

・Commission-K の投稿状況については、すべてのセッションで予定通りの件数が集まっている。Commission-K の Convenor Session では 14 件の登録があり、そのうち７件が日本からの投稿であった。一方、Young Scientist Award（YSA）への日本からの応募者は不在であった。また、Commission-K が主導する Joint Session については十分な投稿数を確認できているが、他の Commission が主導する Joint Session の状況については、現時点では不明であるとの報告がなされた。

■　議題３：令和８年度のスケジュールについて

・日景委員より、令和８年度に予定されているビジネスミーティングおよび医用生体電磁気学シンポジウムの北海道開催に向けた準備状況について報告があった。会場については、北海道庁旧本庁舎（赤れんが庁舎）での開催を軸に調整を進めている。開催日程は 2026 年７月８日（水）を予定している。実施時間については、例年の形態を考慮して午後からの開催を検討しているが、午前開催の必要性が生じた場合には、柔軟に開催時間を変更する予定であるとの報告がなされた。

（質問・コメント）

中園委員長：特別講演者の方は決まっているか。

→日景委員：特別講演者の候補者の方はまだ決まっていないため、後ほど相談させていただきたい。

■　議題４：前回議事録の確認

・齋藤（淳）委員より、資料 26-3-1 に基づき前回議事録の確認が行われた。

・前回議事録について異議なく承認された。

（質問・コメントなど）

中園委員長：　前回の議題であった「電波資源利用ハーモナイゼーション小委員会」への

Commission-K からの選出委員については、伊藤委員および多氣委員の両名にご参加いただくこととなった。改めて感謝を申し上げたい。
多氣委員:河野委員のご説明の通り、本小委員会における Commission-K への期待は大きい。課題として、特にパブリック・コンセンサスに関する問題を認識している。例として、ヒトへの電波ばく露研究を行う際、倫理審査において安全側に過度な制約が課され、十分な研究実施が困難なケースがある。このような課題やその他も含め、委員各位よりご意見をいただければありがたい。
平田委員：現在 ICNIRP では WHO 関連の案件も多く、多氣委員よりご指摘のあった倫理審査の課題には十分取り組めていないが、Over Exposure に関する課題は認識している。2026 年５月には、医療分野での Over Exposure に関する疫学研究をテーマとしたワークショップを開催予定であり、今後はこのような議論を深めていく予定である。
河野委員：多氣委員、平田委員よりいただいた安全性や Over Exposure に関するテーマは非常に重要であると認識している。電波ばく露の安全性に関する課題については、Commission-K を中心に、医学分野の専門家も交えて検討を進めていきたい。

■　議題５：関連学会・会合に関する報告
・平田委員より、ICNIRP の動向について紹介がなされた。２月に WHO より決議書が発表され、その中に ICNIRP および ICRP が明記された。国連機関以外の組織が WHO の決議書に記載されるは初めてとなる。WHO の決議書への明記により、今後は国連機関の文書等において、ICNIRP や ICRP のガイドラインが参照される機会が増えることが予想される。
・牛山委員より、BioEM 2026 の状況報告がなされた。演題数については、2025 年のレンヌ開催時（250 演題）と比較して、現時点では 150 演題と減少傾向にある。この要因として、開催地との距離や旅費負担の影響から、欧州圏からの参加者が減少したことが考えられる。日本からはオーストラリアへのアクセスが比較的良好であるため、委員各位へ積極的な参加の呼びかけがなされた。また、間近に控えた BioEM の Board メンバー（理事）選挙に関連し、現状は会員数が不足しているとの報告があった。そのため、学会参加の機会を捉え、BioEM への会員登録についても併せて検討して欲しいとの要望が伝えられた。

■　議題６：その他
・特になし。

以上